

東九州自動車道福岡工事区 28 地点

や ど み どう ま え い せ き

矢留堂ノ前遺跡

平成 23 年 1 月 23 日

矢留堂ノ前遺跡は福岡県文化財保護課が、平成 21 年 10 月から行橋市矢留地区の県道 34 号線沿いで発掘調査を行っています。

なぜ発掘調査をしているのか？

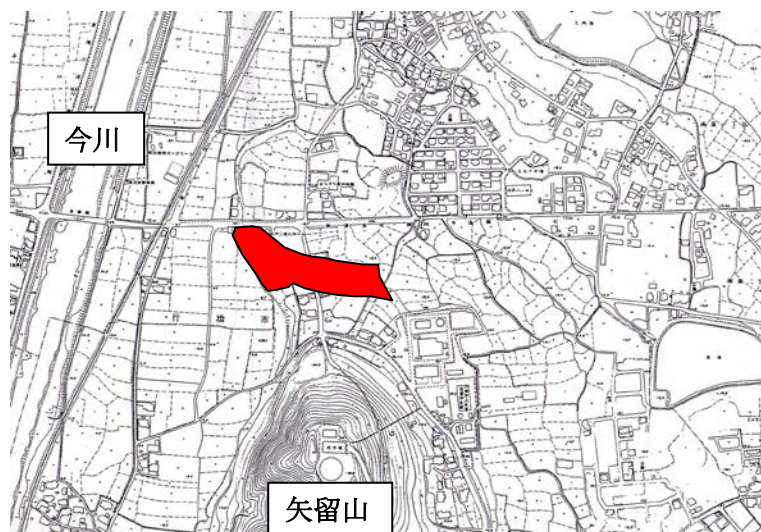
発掘調査は東九州自動車道の建設工事にさきがけて行っています。これは、その場所に住んでいた人々の暮らしや社会の様子を記録に残しておくためです。調査の成果は後日、調査報告書という冊子にまとめられ、図書館や資料館に置かれますので、見るができます。

どんなものが発見されたのか？

矢留堂ノ前遺跡からは、縄文時代の陥し穴群、弥生時代のはじめ頃の環濠集落、弥生時代の後期の集落、古墳時代はじめの墓地、奈良時代の集落、室町時代から戦国時代の集落が発見されました。

遺跡のつくられた場所

矢留堂ノ前遺跡は矢留山の北側尾根上の緩斜面に位置しており、西側は今川の氾濫に削られて急斜面になっています。矢留山からは周囲を見張ることができ、今川が自然の堀になっているので、集落を守るには良い地形です。東側には小川が流れる浅い谷があり、その間に遺跡が営まれていたようです。



第 1 図 遺跡位置図



第5図 環濠範囲と弥生前期集落域推定図



環濠土層断面

【 卑弥呼の時代の集落から古墳時代初頭の有力者の墓



第6図 弥生時代終末～古墳時代初頭遺構配置図

卑弥呼の時代の集落と古墳時代初頭の有力者一族墓

約 1,800 年前の弥生時代後期に再び集落が築かれました。集落の南西端部と思われる位置に竪穴住居のない空間があり、そこに 1 辺 17m の方形区画溝が検出されました。

北辺中央には陸橋部があり、区画内に同時期の遺構は確認されませんでした。溝内から大量の土器が出土することから、露天の祭祀空間と考えられます。

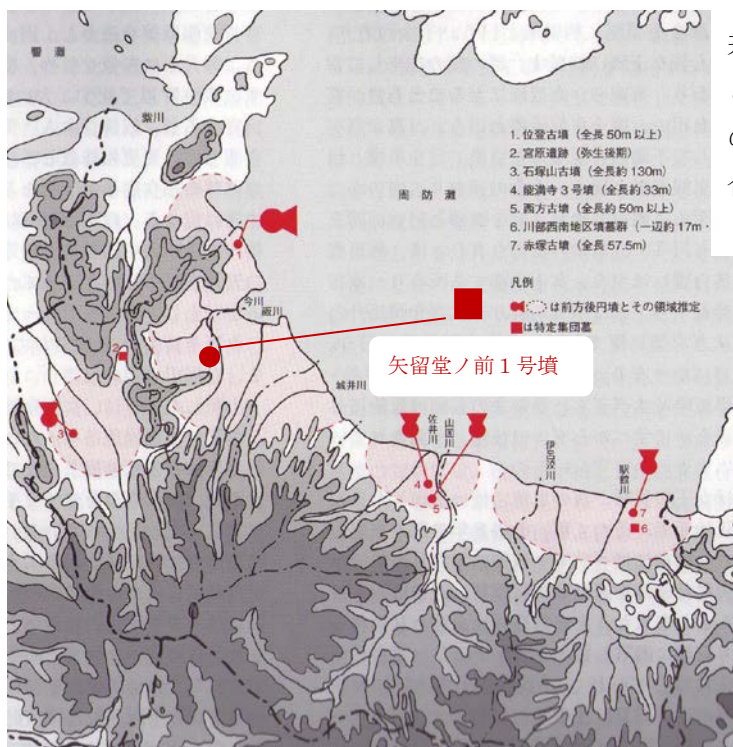
この集落は弥生時代終末（庄内Ⅲ式期）に廃絶し、古墳時代初頭（布留Ⅰ式期）に特定集団墓に変わっており、集落の一般構成員と別に埋葬される有力者の一族が存在していたことがわかりました。

墓地は 1 辺約 20m の方墳 1 基と、その周囲に 4 基の方形周溝墓と、2 基の木蓋土墳墓と 1 基の小児甕棺墓が検出されました。

1 号墳は、首長墳としては小型で、前方後円墳でもありませんが、京都平野の古墳時代初頭の首長墳の空白を埋めることになりました。



方形区画溝



第 6 図 豊前地方の古墳時代主要古墳分布図

室町から戦国時代の溝が方形に巡って区画をなしており、区画の中からは掘立柱建物跡と井戸や土墳墓が検出されている。墓があることと、最も外側の溝の規模が小さいことから城館の一部とは考えにくく、一般民衆の屋敷地が集合した「ブロック形屋敷地群」と考えられる



第 7 図 京都平野の首長墓の変遷図